芸文だより

第40号

令和５年３月15日

村山市芸術文化協議会

題字／齋藤　湖舟

コロナ禍での再開 芸文茶会

ご一緒に芸術文化の活動に参加してみませんか

村山市芸術文化協議会会長　伊　藤　大　藏

芸術は、人間が人間らしく生きるために欠かせないものです。時代は進んでも人間の心と魂を芸術に込めることは、ＡＩ（人工知能）ではなく、人間にしかできないことは明白です。

今年度も市芸術祭が十月十九日から十二月十日にかけて、村山市民会館を中心に行われました。ここ二年ほどコロナ禍で参加を控えていた団体も復活し、一部を除いてほぼコロナ以前の状態に戻ることができました。多くの方々に足を運んでいただき感謝申し上げます。

市民会館は、開館以来五十年以上、芸術文化を楽しめる場、様々な活動の発表の場を私たちに提供してくれています。会員にとって本当にありがたいことだなぁと、改めて市当局に感謝を申し上げます。

芸術文化の力を今後とも地域並びに市民に提供し、元気を共有していきたいと考えています。皆様もこの機会に、ご一緒に芸術文化の活動に参加してみませんか。

さて、我々の悩みは、高齢化に伴って活動ができなくなっていく会員がいること、また若年層の会員が少ないことです。子供のうちから芸術文化に浸ることができるように、学校や家庭、施設と連携して育成していかなければならないと考えています。今年はその第一歩として市の子育て支援課とタイアップして、「バリアフリーのびのび文化教室」を実施することができました。これは、障がいを持つ子供たちが文化活動を体験し、生涯楽しむことができる趣味を発見するきっかけを作ることを目的としたものです。今後とも継続しながら、次世代育成に取り組んでいきたいと考えています。皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

久々に披露された剣詩舞

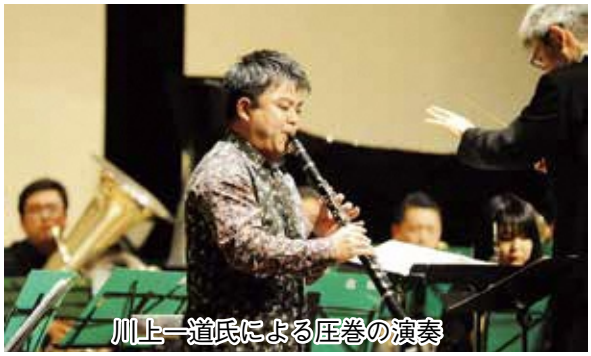
生涯学習としての地域に根差した吹奏楽

北村山吹奏楽団　森村龍也

「地域に根差した活動をモットーに活動しています！」

多くの団体がこのように言って活動しています。しかしながら、学生の部活動でもない大人の趣味の場で、本当の地域に根差した活動とはいったいどのような活動なのでしょうか。ひとつの決まった答えは存在してないからこそ、難しいことだと感じています。

さて、当団は創立二十周年を迎えました。創立二十周年記念演奏会と位置付けた「秋のコンサート」は、山形交響楽団首席クラリネット奏者の川上一道氏をお迎えしました。ゲストを決めるにあたっては、地元山響の奏者、そして日本一にも輝いている川上先生しかいないと満場一致で決定しました。通常ゲストプレイヤーは、本番前日と当日しか合わせをしないことも珍しくないのですが、川上先生は本番まで三回も私たちの練習へ来てくださいました。先生の素敵な音楽とお人柄に触れながら練習でき、かけがえのない時間になりました。


川上一道氏による圧巻の演奏

演奏会は当団単独ステージとゲストステージの二部構成。単独ステージでは、チューニングしていると曲が始まっているという珍しい曲で演奏会をスタートさせ、吹奏楽オリジナルクラシック曲、当団名物の「紅白吹奏楽戦」と、当団の魅力をこれでもかと詰め込んだ玉手箱ステージでした。ゲストステージでは、川上先生ご自身が大好きなウェーバーのクラリネット協奏曲第一番、ジャズのテイスト溢れるアーティ・ショウのクラリネット協奏曲、アンコールは曲が進むにつれてクラリネットを分解して短くしていくインマー・クライナーを演奏していただきました。川上ワールド、存分に堪能していただけたのではないかと思います。

20年のハーモニーが響く

また、六〇〇名を超えるお客様にお越しいただきました。駐車場は満車で、開演ギリギリにいらしたお客様からは、車を止めるところがなかったというお話をいただきました。お客様にはご迷惑をおかけしましたが、嬉しい悲鳴でありました。ご来場いただきました皆様に御礼申し上げます。

これまで私たちは、北村山地区の吹奏楽部の皆さんをお迎えして演奏会を開催してきました。地域の楽器を演奏する先輩、ある種の「憧れの先輩」を目標としている部分があります。実際に、学生の頃に当団と演奏した生徒が大人となり、入団している団員もいます。吹奏楽という生涯学習の中で、サイクルの一部となれていること、そして吹奏楽部で育った子どもたちの受け皿となれる存在であること、これこそが地域に根差した活動のひとつの形だと私は思っています。

中学生との共演（令和元年秋のコンサート）

この度の演奏会は、常任指揮者の伊藤徹先生がスコアをふっ飛ばしたり、私が団長あいさつで感極まって涙し、後に「鬼の目にも涙とはこのことだ」と団員から茶化されたりしましたが、私は「素敵な記念演奏会だった」と胸を張って言うことができます。新型コロナの影響も全くなく、当初の予定どおりの人員で開催できたことも奇跡、神風が吹いたとしか言いようがありません。演奏会に関わってくださった皆様に感謝し、新たな気持ちとこれまでの二十年間の歩みを大切にしながら、地域に根差した活動を続けていこうと思います。

次の10年に向けて

「松舞踊村山塾第十五回発表会」を無事終えて

松舞踊村山塾　田中正信

●市と芸文協の英断に感謝

「秋の芸術祭はどうなるのだろう？」と心配でした。それが開催できましたことは、市当局および芸文協のご英断の賜物であり感謝します。

私たちの生活は、コロナ禍の影響で大きく変わりました。しかし、人はどんなに辛く、苦しいときでも、音楽・舞踊などの芸術や文化によって心は癒され、明日への夢と希望が湧いて参ります。まさに、芸術文化は「心の糧」であります。

開幕を飾った演目「清水湊の十人衆」

松舞踊村山塾、そんな時代だからこそ、皆さまに夢と希望を届けたい。そんな熱い思いから、今年度も発表会を開催することにしました。さて、ここで「股旅舞踊」について紹介したいと思います。

●股旅舞踊が大好きなわけ

それは、子どもの頃の春祭りに遡ります。長い冬から解放されて待ちに待った春……、村の青年団の人たちが神社の境内に仮小屋を作り踊っていました。縞の合羽に三度笠、粋な股旅の姿です。披露された「名月赤城山」や「旅笠道中」に、村中あげてヤンヤヤンヤの大喝采、夢中になって観ていました。

●なぜ大衆の共感を呼ぶのか

股旅とは、侠気に富んだ腕の立つ渡世人が主人公です。悲境に泣く弱い人々を助けた後、当てもない旅に出るというのが筋であります。それはアメリカの西部劇とも好一対をなすもので、洋の東西を問わぬ、大衆の嗜好の共通性が見られると思います。

コロナ禍以前の満員の客席

●一粒の小さな種

村山の地に、股旅という一粒の小さな種を蒔いたのは、宮城県の松流松舞踊宗師・松としはる先生、同家元・松ゆうか先生です。先生の「舞踊道」にかける飽くなき挑戦とご尽力により、小さな一粒の種が芽を出し、葉を茂らせ、若木に成長しました。

●明日への〝夢〟

「松舞踊村山塾」には大きな夢があります。一つは、股旅の世界は「義理と人情」の世界です。日本人の心意気を、股旅を通して多くの人に伝えていきたい。二つ目は、股旅をきっかけとした交流人口の増加など、村山市の「まちおこし」に繋げたい。

初開催！バリアフリーのびのび文化教室

この事業は市子育て支援課が「障がい児健全育成事業」の一環として実施しているもの。障がいを持つ子どもたちが、生涯楽しむことができる趣味を発見するきっかけ作りを目的としています。芸文協は共催としてこの事業に参画し、今年度は「のびのび生け花教室」と「のびのび造形教室」の二つの講座を開講しました。

生け花教室では、市華道連盟の会員による指導のもと生け花に挑戦。参加者は、初めて触れる華道の道具の使い方を教わりながら制作に取り組み、完成した作品は芸術祭のいけばな展で展示しました。

親子で取り組んだ生け花教室

造形教室では、市美術連盟の会員が講師を務め、油粘土を使用しての造形遊びに取り組みました。「幸せの形」や「夢の家」などをテーマに、参加者は自由な発想で粘土と向き合っていました。

油粘土で制作に挑戦！

芸文協では、未来に繋がる芸術文化振興の取り組みとして、来年度も複数の講座を実施する方向で検討を進めています。今後の活動に、是非ご注目ください。

第58回 村山市芸術祭

会期　令和四年十月十九日～十二月十日

第五十八回村山市芸術祭は、十月十九日の「県美展・こども県展　村山巡回展」を皮切りに、十二月十日の「からす笑劇場」までの約二か月、村山市民会館を主会場に開催されました。趣向をこらしたステージや展示に訪れたお客様は、思い思いに芸術の秋を満喫していました。

和の音色を奏でた三曲公演

聴衆を魅了したフェブリエ『プロムナード・コンサート』

温かい作品が集まった手芸作品展

個性の光る書の色紙展

恒例となった厚岸との合同写真展

立派な枝ぶりを披露したさつき盆栽展

秀逸な作品が展示された書道展

会場を彩った五流派合同のいけばな展

大作から小品まで並んだ美術展

美しい音色を披露した大正琴演奏会

視線を釘付けにしたからす笑劇場

県内の作品が集結した県美展・こども県展

三年ぶりの芸術祭参加

村山吟友会　鈴木忠彦

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、吟友会は芸術祭への参加を二年間見送りましたが、今年度の参加についても、どうすべきか大いに迷ったところでした。

その理由の一つが、新型コロナの感染者数が、減少するどころか過去以上のペースで増加していることへの不安です。これには各団体の皆さんも同じように心配されたのではないかと思いますが、如何だったでしょうか。

それに加え、吟友会の悩みとしてあったのが、詩吟という文化の性質上、避けることのできない「飛沫」の問題です。大きな声を出すため、どうしても唾が外に飛んでしまうのです。「これが元で会員から感染者が出たらどうするのか」などの心配がありました。

しかし、三年間も参加しないというのも簡単には受け入れ難い話であり、難しい判断でしたが、役員会で十分に話し合った結果、参加することに決したのでした。

当然のことながら、感染予防には万全を期しました。ただ、「マスクをつけて吟じると声が消されて言葉もはっきりしなくなる」などの意見から、吟じるときはマスクを外していいこととしたのでした。

結果として、コロナ禍以前より参加者は減ってしまいましたが、皆さんの元気な姿と張りのある詩吟を聴き、参加して本当に良かったと思っています。

詩吟は高齢の愛好者が多いため、年々会員が減少していますが、続く限り芸術祭には参加して参りたいと思います。

3年ぶりに凛とした声が響く

仲間と

日本舞踊若二三会　佐藤祥子

公演の幕開けを飾る

コロナ禍で二年ほど発表会ができなくなり、舞台での感覚もすっかり忘れてしまったのではないか。そんな気持ちを抱えながら、令和四年十一月三日、若二三会の発表会当日を迎えました。

今年は幕開きを任せていただき、普段緊張することはあまりない私も、少しばかり重圧を感じました。

未だ収束しない新型コロナウイルスの猛威の中、発表会の決行にあたり、会員の皆で感染対策を講じながら準備を進めてきました。直前にコロナに感染してしまい、出演が叶わなかった仲間もまた、本番に向けて準備にお稽古にと頑張っていたのを見ていた為、彼女の為にも絶対に成功させようと心に決めて挑みました。

幕開きはミスなく無事に終えることができ、ほっとしています。有難いことに、観客の方々から終演後に声を掛けていただき、喜びと共にこれからもお稽古を頑張っていきたいと感じた、二年ぶりの発表会でした。

歩みを止めずに

三味線民謡正徳会　芳賀清

コロナ禍で各種イベントが中止となる中、村山市芸術祭が今年も開催されました。感染対策に配慮しながらも、英断をもって開催していただいた市芸文協、そして関係者の皆様に心から感謝申し上げます。

響きの大変良い音響、お客様も前年よりはかなり多く足を運んでいただいたようです。

民謡ブームは、バブル経済崩壊とともに下降線を辿っていますが、津軽三味線愛好者は、若い人を惹きつける音色や独特のリズムが魅力となって、少しずつ裾野が広がっている気がしています。

正徳会の誇りとして、県民芸術祭の民謡部門で二回連続で最優秀賞に輝いた実績もあり、より多くの市民の皆様のご期待に添えるよう、歩みを止めずに活動していきたいと思っております。民謡に興味のある方は、老若男女問わずに是非ご一緒に楽しみましょう。

会場を震わせた津軽三味線

七年目の挑戦

劇団赤ひげ　浅野目　瑞　季

劇団赤ひげに入団して七回目の公演となりましたが、今回ほど本番直前まで頭を悩ませた配役は無かったと思います。実年齢より五十歳も年上の認知症のおばあさん、それも物語において主要な登場人物、本当に難しい役でした。稽古中だけでなく、日常生活の合間でもどうやったら役に入り切れるのか…、常に頭の片隅で考えていました。自分の経験の浅さ、役者としての未熟さを痛感する日々でした。

そんな不安な気持ちを抱えながら臨んだ本番でしたが、お客様からは好意的な感想を多く頂けて嬉しかったです。舞台の登場人物と自分の身内を重ねて涙を流しながら帰った知人を見て、人の心に届くような演技ができたのかな…と自信になりました。

最後に…、ここまでやり遂げられたのは共に舞台を作り上げた仲間たちの力があってこそだと思っています。本当にありがとうございました。

感動を呼んだ劇場赤ひげ「ファミレスのババロア」

四月のある日に

村山フォトクラブ　堀　澄　雄

コロナで明けた令和四年。クラブの一大事業である撮影旅行は、今回で四回目の中止となった。安心して活動できる日がくるのは、いつの日になるだろうか。

四月のある日、桜の季節を迎えてカメラ片手に出掛けたくなり、計画を立てる。最初に浮かんだのは高畠町の安久津八幡神社と飯豊町の白川ダム湖周辺である。

天気予報を調べ、高畠駅前に宿を予約して出発する。途中休憩しながら高速を一時間ちょっと走り、南陽高畠インターを降りてから一般道で十五分、安久津神社の駐車場に着いた。三重塔前の池には桜と菜の花が咲いており、どう撮ったらいいか考えながら歩きまわる。いつも思うが、桜の花は白く写ってしまう。桜の色を出すことは実に難しい。

夕暮れ近くまで頑張ってから安久津神社を立ち、旧高畠駅舎に向かうと出店が出ていた。周辺の桜・駅舎がライトアップされて同時に撮れる。「なかなか画になる」と油断していると、桜がピンクでなく紫色になってしまう。危なかった……。

急ぐ旅ではないので、翌日は十時頃に宿を出て白川ダムへ向かう。途中、道路脇に桜が咲いていたが、ダム湖周辺にも咲いているだろうから心配無用である。ただ、ちょっとだけ早かった。

白川ダムの貯砂ダムに到着すると、湖面には残雪と埋没林が見られ、幻想的な風景にしばらくシャッターを切り続けた。場所を変えるとカヌーに乗っている人もいた。更に車を進めると、残雪の中で桜が咲いている場所があった。残念なことに山の天気は変わりやすく、曇りの為うまく色が出なかったことが残念だった。またチャレンジしてみたい。

三重塔と草花の彩り

芸術文化功労者を表彰

村山市芸術祭開幕式の席上、令和4年度芸術文化功労者が表彰されました。誠におめでとうございます。（10月28日市民会館）

【栄光章】

笹原　美楓（戸沢・書道会）
＝第46回山形県総合書道展
　山形県知事賞
後藤　渓星（戸沢・書道会）
＝第46回山形県総合書道展
　山形県議会議長賞

【感謝状】

布川　和則（楯岡・社会音楽連盟）
伊藤　　徹（楯岡・社会音楽連盟）
鈴木　　瞳（楯岡・杉島諏訪太鼓保存会）

原田一裕さん 文部科学大臣賞を祝う

七十五周年記念・示現会展において、原田一裕さん（市美術連盟顧問）の「吊るした布と花梨」が、最高賞の文部科学大臣賞に輝きました。同展での県内関係者の最高賞は十五年ぶりで、二人目の快挙となります。これもひとえに日頃からのたゆまぬ精進の賜物であり、会員一同心よりお祝いを申し上げます。また、村山市の芸術文化の向上発展に寄与されたものと心より敬意を表します。

原田さんの作品は百号の油彩画で、吊るした黒いシーツを背景に、静物の花梨を配した構図。皮革刀を用いながら掠れるようなタッチで描かれた暗色の布が垂らされて、下方の台に薄めに彩色された花梨の実が三つほど描かれています。明るい黄色の色彩が輝くようの雰囲気も見せ、そこに静かなロマンがあり、惹きつけられる作品です。

現在、県美展では委嘱作家として、示現会山形支部では支部長として活躍されています。尚一層のご活躍とご発展をお祈り申し上げます。

（市美術連盟会長　板垣雅一）

注目！ 日本舞踊 若柳朋二三さん

若柳朋二三の芸名を九歳にて頂き、新橋演舞場の舞台に立ちました。平成二十二年、師範の試験に挑戦して見事合格し、二十五年には県民会館にて義太夫「蝶の道行」を、国立劇場大劇場で開かれた直派若柳流舞踏会にて常磐津「妹背山」を披露。同じく二十八年には長唄「四季の彩」を披露しました。佑二三先生を亡くして、とても心細かった私たちに、家元は「大丈夫よ、満足してたら終わりよ」と優しくお声をかけてくれました。大きい舞台を踏む度に成長している朋二三です。勿論、毎年の若二三会の発表会では後輩の指導も。

県の花笠ではイタリア・ミラノ万博へ舞踊団として参加し、二十八年には花笠舞踊指導員に就任しました。令和二年には県花笠協議会理事となり、花笠まつりや各地のイベントで活躍しています。女性が趣味を続けるにはご家族の協力が必要です。出来る倖せを噛みしめ、今後の活躍を望みます。

（日本舞踊若二三会会長　佐藤敦子）

令和四年度 村山市芸文協のうごき

- 4・11　四役会
- 4・13　会計監査
- 4・22　理事会
- 5・8　山形交響楽団　ユアタウンコンサート村山公演（後援）
- 5・12　県芸文協常任理事会
- 5・16　総会（書面）
- 5・28　県芸文協総会・創立60周年記念式典
- 7・27　市町村芸術文化団体会長会議
- 8・7　村山市長杯第17回羽州街道楯岡宿股旅舞踊全国大会（後援）
- 10・6　芸術文化功労者選考委員会・三役幹事会
- 10・19　県美展こども県展村山巡回展
- 10・28　村山市芸術祭開幕式・功労者表彰式
- 10・29　バリアフリーのびのび文化教室（生け花）
- 11・5　バリアフリーのびのび文化教室（造形）
- 12・13　芸文だより編集委員会
- 12・22　北村山地区芸文協地域懇談会
- 1・26　芸文だより編集委員会
- 2・27　理事会・三役幹事会

あとがき

新型コロナの感染拡大から、ほぼ三年が経過しました。村山市の芸術祭も大きな影響を受けて、声を出す活動を中心に、参加を見送る団体が多くありました。

そんな中、今回の芸術祭は、参加を再開する団体も多く、ほぼコロナ流行前の姿で開催できました。芸術祭不参加で、活動意欲の低下などの影響があったと聞いております。

コロナが普通の風邪となる気配も見えています。文化芸術の発展に希望を持って取り組んで行きましょう。

（編集委員長　秋生　悦雄）

芸文だより編集委員

秋生　悦雄（村山吟友会）
星川　英子（三味線民謡正徳会）
浅野目　瑞季（劇団赤ひげ）
堀　澄雄（村山フォトクラブ）
佐藤　祥子（日本舞踊若二三会）